

元気通信 浪速区難波地域から 難波食事サービス 愛とユーモアでいつまでも	2
居場所いろいろ 安立親子・高齢者食堂(住之江区) 誰でもウェルカムな地域の食堂 連携力に自信あり!	3
市社協 特集「大阪市における生活支援 地域とともに「介護予防」生活支援を推進」	4
令和元年度(第73回)赤い羽根共同募金運動	6
令和元年度 児童虐待防止推進月間	6
はじめまして!「こんにちは」 NPO法人すずきLandmark あなたの「道」は、 どんなふうに創りますか?	8

大阪の 社会福祉

2019.11

774

The social welfare
in OSAKA

社会福祉 大阪市社会福祉協議会

<http://www.osaka-sishakyo.jp>

花壇を通じた世代間交流

「以前から地域に開かれ、地域住民とのつながりもあり、花壇の有効利用と、施設の地域貢献としても多くの人に利用してほしい」「花壇を中心とした、さまざまな人たちが交流できる居場所になれば」との思いと、普段から施設とのつながりがあり、居場所を「園(2・3面に続く)」

東淀川区

みんなの花壇

施設×地域ボランティア×
保育園×区社協で居場所づくり

社会福祉法人 大阪自彊館が運営する総合福祉施設「メゾンリベルテ」は、平成31年4月から、同施設が営む地域交流センター前の花壇で、近隣の保育園「グローバルキッズ東淡路園」や地域ボランティア、東淀川区社協と協働し、ガーデニング活動「みんなの花壇」を進めている。施設の花壇が地域での交流場所のひとつとなり、それぞれの思いが形となった取組みを紹介する。

地域に開かれた施設
だからできること

協働の背景には、施設の花

壇を長年手入れしているボランティアグループの高齢化という課題があった。一方、区社協は「生活支援体制整備事業」の取り組みのひとつである、居場所づくりを進めたい。

HB

福祉施設で働く知人に、誰か土日だけでも働いてくれる人いないでしょうか、と尋ねられた。福祉の現場は本当に人手不足なのだ▼そして、送ってきた採用の要綱を見て驚いた。土曜日の朝8時45分から翌日の朝9時まで、間に休憩や仮眠という時間はあるけれど、24時間拘束。そんな条件で働きたいという人がいるのだろうか。これでは人に紹介しにくいというのが正直な感想だ▼しかし、それを送ってくるというのは、今の福祉施設では当たり前の実態なんだと、気の毒になった。世を挙げて働き方改革を叫んでいるときに、福祉施設の現場はこれほど厳しいのだ

▼一方で、ユニバーサル就労という言葉聞いた。実情に合わせて、1日3時間とか、来たいときに来たらいいとか、引きこもって働いていない人に働いてもらう方法を模索している福祉施設の話を。障害者手帳はないけれど、多少の配慮の必要な労働力が今、引きこもりという形で100万人も眠っているのだ▼競争社会の只中に放り出すのではなく、ゆっくりと働くという、中間的な働き方があるといい。そんなところにも福祉施設の役割がある。(石)

(1面より続き)

児が土とふれあう機会」ととらえる保育園が加わり、一緒に取り組むことになった。地域の居場所づくりのスタートに向けて、種、土、花など準備にかかると、初期費用は区社協が負担し、施設や保育園、ボランティアと一緒に準備を進めた。

園児たちの笑顔が、活動の張り合いに

4月、「みんなの花壇」がスタート。地域ボランティア3人と保育園の園児たちを中心にガーデニング活動をおこなう。4



5月には、みんなでさつまいもの蔓植え

「孫のような園児さんたちとふれあうのが楽しみ」。同じく榎本慶子さんは「果樹園をしていた経験が役に立てば」と嬉しそうだ。メゾンリベルテの生活相談員・高橋加容さんは「活動に負担を感じていたボランティアさん、園児さんとのふれあいが、

月にひまわりの種を、5月にはさつまいもの蔓を植えた。この間、園児たちは月2回通って水やりをし、それ以外は、毎朝、ボランティアの西田福市さんが管理した。9月12日は、ボランティアからの提案で、4月に植えた「ひまわりの種とり」をおこなった。強い夏の日差しを受け成長したひまわりは、高さ約3メートル。「わあ」と声をあげながら、園児たちは自分たちで蒔いた種から立派なひまわりが育ったことに喜んでいて。「ぎゅって押しごらん、種がないのはパリッと割れてしまう。種があるのは硬いほう」と教えるボランティアの千々岩廣季さんは「孫のような園児さんたちとふれあうのが楽しみ」。同じく榎本慶子さんは「果樹園をしていた経験が役に立てば」と嬉しそうだ。メゾンリベルテの生活相談員・高橋加容さんは「活動に負担を感じていたボランティアさん、園児さんとのふれあいが、



他愛もない話をするのが一番楽しい

参加者は、約20人。多くが70〜80代の地元住民だ。活動ターと同ビル内にある難波地域集会所で、ひとり暮らし高齢者のふれあいや見守り活動の一環として、食事サービスが提供されている。食事サービスは、約30年前に老人憩の家でスタート。平成17年、旧難波小学校跡地に浪速スポーツセンターが建つたと同時に、現在の場所に移った。

元気通信

浪速区 難波地域から
難波食事サービス

～愛とユーモアでいつまでも～

府立体育館やなんばパークスが近接し、一日中賑わいをみせる難波地域。第3水曜日は、浪速スポーツセン



笑わずにはいられないレクリエーション

歴約20年、食事サービス委員会委員長の末沢和代さんは「来てもらえるのは元気な証拠。長い付き合いなので体調の変化は顔を見ればわかる」という。食事は、弁当屋から仕入れるが、汁物は、料理店を営んでいたボランティアが腕をふるう。「春は、はまぐり、夏はそうめん、冬は粕汁に豚汁、1月は餅つきをしてお雑煮。季節を感じられる絶品の味！」だ。食事と同様、いやそれ以上に楽しいのが、食後のレクリエーション。まず、開催月に生まれた人をハッピーバースデーの歌と生演奏、ミニプレゼントで祝う。「恥ずかしいけど、うれしい。みんなに会いたくて参加している」と祝

ってもらった女性にはっこり。その後、「早起きは・…」 「三文の徳」でなく、嫌われる」などのオリジナルことわざほか、ユーモアのある、役に立つクイズが続く。極めつけは、末沢さんの替え歌だ。童謡や懐メロに、オレオレ詐欺の注意喚起から、町会メンバーの人物紹介まで、韻を踏んだ、どんぴしゃの歌詞がハマり、会場は大爆笑。替え歌は、大切なことを伝えるツールにもなっている。ボランティアは、70代のベテランと30〜40代で、計7人。嫁姑の年齢差だが「50年地域に住んでいる方々の話はおもしろい」「ご飯のつくりにかたも勉強になる」と仲がよい。末沢さんは「将来、私の車いす押ししてくれるそうやから、安心やわ」と笑う。大阪ミナミの玄関口、行き交う人は流れていくが、ここでは、月1回、変わらぬ人たちが一緒に、食べて、歌って、笑って、歳を重ねていくことができる。 「『来月も、来たい』と思ってもらえることが大事。気になる人がいる限り、続けていきたい」と末沢さんは思いを語った。

張り合いになってきているのか、以前より、通う頻度が増えた。デイサービスや障がい者施設を利用されている方も、花壇に出きてくれる」と取組みの影響も大きいようだ。

知識を得るだけでなく、命を慈しむ心も

園児たちの様子について、グローバルキッズ東淡路園の園長・園田加奈子さんに聞いた。「ボランティアの方々から知恵をいただけるのがありがたい。保育園でも、こどもたちがベランダで米となすびを育ててい



園児らがペイントを施した「たね募金箱」

園児らがペイントを施した「たね募金箱」(種や苗)が据えられている。今後、活動を継続するために、必要となる費用は施設・保育園が相談をしながら負担していくとともに、寄附や募金も集める予定。施設の受付には、こどもたちが思いを込めた、手づくりの「たね募金箱」(種や苗)が据えられている。

る。先日、咲いた花を摘もうと伸ばした園児の手を一緒にいた別の園児が「かわいいそう」と制していた様子を見たとき、植え方だけでなく、命を慈しむ心も育っていると感じてうれしかった。次回はさつまいもの収穫、どんな場になるのか期待が高まる。

区社協の生活支援コーディネーター・佐村河内智美さんは「施設の花壇を中心に、園児や地域ボランティア、施設利用者ほか、地域のみなさんがつながり、想像以上に喜んでもらっていることを実感している。より実りのある地域の居場所となるように、ボランティアのみなさんのやりがいをサポートしながら、引き続き、支援していきたい」と話す。

居場所 いろいろ

-15-

安立第二福祉会館では、第三木曜日の夕方、「親子・高齢者食堂」が開かれている。共働きの家庭の親子やひとり暮らしの高齢者をはじめ、誰もが気軽に立ち寄れる食堂をめざしている。

南海電車の高架下にある会館は、柱や梁が多く、畳敷きで、食堂を開くのにふさわしい空間とはいえなかった。地区社協会長・中野紀久雄さんは「このままでは使えない」と考え、助成金を活用するなどバリアフリーに全面改装。衛生面を考え厨房には、シャッターを取り付け、広々とした清潔感のある食堂には、孫を連れた家族、車いす利用者を含め、地域の人たちが毎回120人ほど訪れている。

メニューはカレー。地域で50年以上、喫茶店を営み、連合町会副会長でもある古川



チームワーク抜群の運営メンバー

安立 親子・高齢者食堂

- ・主催：安立地区社会福祉協議会
- ・日時：第3木曜日 17:30~19:30
- ・場所：安立第2福祉会館
(住之江区西住之江2-16-4)
- ・対象：どなたでも
- ・料金：おとな400円、こども200円、未就学のこども無料
- ・電話：06-6672-0551 (安立小学校)

運営には、町会長や地域ボランティアを中心に、区役所、地域包括支援センター、まちづくりセンター、区社協などから、計20数人が協力している。設営、配膳、皿洗いほか、会館入口で来館者の安全見守り、帰り道が不安な高齢者の見送りまで、テキパキと役割分担しておこなっている。年1回の親睦会では、地域のボランティア等が集まり「会長から『お疲れさん』と労われ、また1年がんばれる。今後はいろいろな世代が集う場であることを活かし、こどもたちに行儀やマナーを少しずつ伝えていきたい」と池田さんは話す。

誰でもウェルカムな地域の食堂

～連携力に自信あり！～

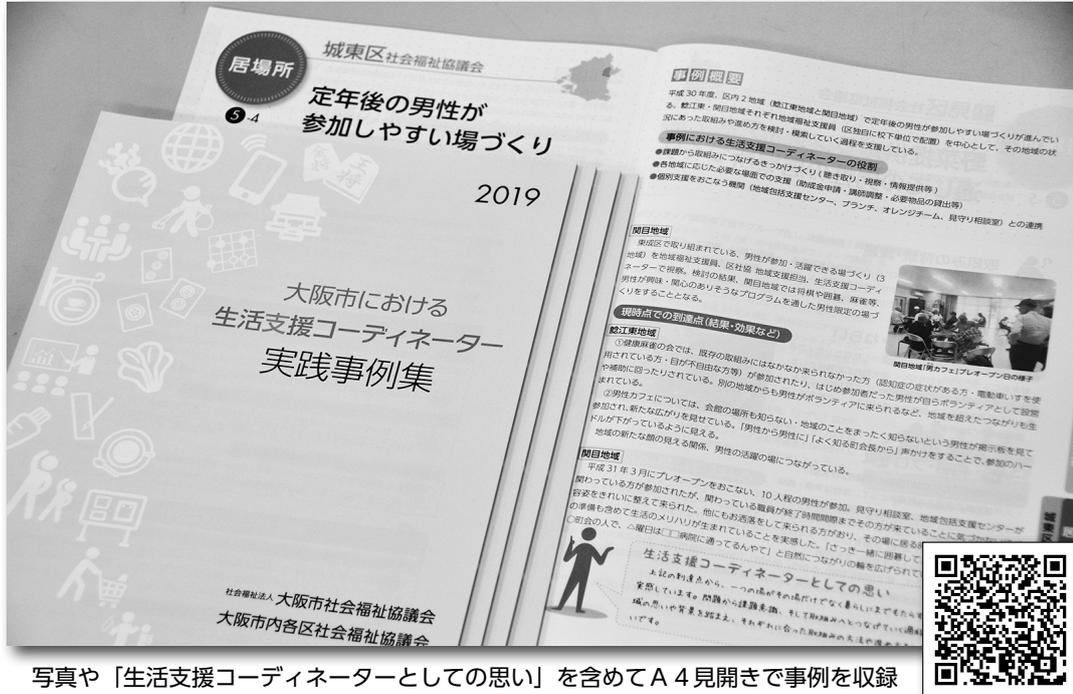
勉さんが、米30キロ、鍋5つを使い、約150食を仕込む。こどもには、甘口を別に用意し、毎回、唐揚げやサラダなどの一品をプラスする。

食堂を切り盛りするのは、20年前から各種団体との関係を築いてきた見守りあったかネットコーディネーターの池田順子さん。「手伝ってくれる人を集め、その人たちが動きやすいように調整するのが私の役目。地域思いの方ばかりで、盛り上がりつつある」と話す。



「おいしい！」カレーでほっこり。

地域とともに「介護予防」「生活支援」を推進



写真や「生活支援コーディネーターとしての思い」を含めてA4見開きで事例を収録



区社協の生活支援コーディネーターが企画に携わり事例執筆（平成30年度 幹事会の様子）

現在、大阪市内各區で「生活支援体制整備事業」が推進され、事業を受託する各區社協に「生活支援コーディネーター」が配置されています。生活支援コーディネーターは、高齢者がお住まいの地域で、元気でいきいきと暮らし続けられるよう、住民やさまざまな関係団体と連携しながら、介護予防の取組み、居場所づくり、生活支援の活動などを推進しています。

事業の全区展開から2年が経過する中、各區で生まれつつある多様な実践をとりまとめた事例集を発行しました。

生活支援コーディネーターとの連携のきっかけに

事例集は全56ページ。市内24

区社協の事例を、生活支援コーディネーターの役割に沿った6つのカテゴリーで収録しています。

大阪市内の住民・関係者（地域団体、医療・福祉関係者、NPO、企業等）の方には、生活支援コーディネーターの役割を感じ取っていただき、「うちの区ではどんなことをしているか？」、「こんなこと相談できるかな？」と、連携のイメージをもっていただききっかけになれば幸いです。

また、他都市の生活支援コーディネーターや社協職員の方は、大阪市内の実践を調べる媒体としてご覧ください。

「もっと詳しく聞いてみたい」といったお問合せは、各區社協または大阪府社協まで。

事例の積み重ねから見てきたこと

事例集の最後には、関西国際大学・講師の岩本裕子先生の協力を得て、事例から見えてきたポイントを整理しています。

例えば、「ニーズや資源の「調査」にあたっては、その結果を住民が「自分たちのものだ」と思えるようなプロセスが重要であること。社協として、多様な主体（企業、NPO、社会福祉法人など）との連携・協働が展開されており、民間性の発揮が今後も期待されること。そして、このように事例をまとめることで、立ち上げた資源の数など量では見えづらい、人々の動きや思いがリアルティをもって浮かびあがってくることなどがまとめられています。

事例集は大阪府社協ホームページからご覧ください。

収録事例一覧

※写真はいずれも事例集に掲載

① 地域情報・ニーズ・資源の把握・分析

1-1	天王寺区社協	「つながり・生きがいづくり」に関するアンケート調査
1-2	淀川区社協	多職種連携の地域診断
1-3	阿倍野区社協	“おしゃべり”からはじめる地域づくり
1-4	住之江区社協	小地域における高齢者の実態調査及びネットワーク委員会の再生について
1-5	住吉区社協	地域住民のニーズを知る・社会資源を知る
1-6	平野区社協	アンケート調査を基にした居場所づくり・有償による助け合い活動の新たな取組みについて



阿倍野区 わいわいトークで意見交換

② 高齢者が利用できる資源情報の周知

2-1	中央区社協	いろいろな媒体を用いての情報周知
2-2	東住吉区社協	14地域ごとの『地域の居場所・交流の場』マップ



東住吉区 地域ごとのマップを作成・発信

③ 介護予防に関する取組みの立上げ・充実に向けた支援

3-1	此花区社協	マンション住人の介護予防と交流をめざして～見守り活動の気づきからの出発～
3-2	西区社協	体力に少し自信のある高齢者に向けた取組み～介護予防から担い手へのステップアップをめざして～
3-3	浪速区社協	いきいき健康体操の立上げ支援
3-4	旭区社協	コミュニケーション麻雀を用いた介護予防の取組み
3-5	西成区社協	老人保健施設との協働による将棋を通じた居場所づくり



浪速区 いきいき健康体操で介護予防

④ 生活支援活動（サービス）の立上げ・充実に向けた支援

4-1	都島区社協	買い物弱者 ^{ビロ} をめざして
4-2	港区社協	買い物支援でコミュニティづくり
4-3	東成区社協	生活支援活動“きづくちゃん「たすけ愛」活動の会”の活動者増加に向けた取組み



都島区 移動スーパーによる買い物支援

⑤ 居場所の立上げ・充実に向けた支援

5-1	北区社協	元小規模多機能型居宅介護を活用した喫茶立上げ
5-2	大正区社協	囲碁・将棋サロン立上げについて
5-3	生野区社協	地域のお宝発表会
5-4	城東区社協	定年後の男性が参加しやすい場づくり
5-5	鶴見区社協	野菜提供ボランティアを通じての男性の居場所づくり



大正区 囲碁・将棋を通じた居場所づくり

⑥ 協議体の設置と運営

6-1	福島区社協	ワークショップを交えた協議体の開催
6-2	西淀川区社協	専門部会の設置、協議体会議の「実務と協議の両立」へ
6-3	東淀川区社協	多職種連携による協議体の開催



東淀川区 多様なメンバーで語る協議体

COMVOでも関連取組みを紹介！

大阪市ボランティア・市民活動センターが発行する情報誌「COMVO」の12月号 (vol.242) では、平野区、鶴見区、旭区で生活支援コーディネーターが関わる「男性の活躍の場づくり」を紹介。あわせてご覧ください。※11月中旬にHP掲載予定



令和 元年度 第73回 赤い羽根共同募金運動

オープニングセレモニー 開催

赤い羽根共同募金運動が、10月1日から始まり、オープニングセレモニーが、なんばウォーク、クジラパークでおこなわれ、大阪府共同募金会の宮川晴美会長、福井紀夫副会長、勇照明副会長、大阪府・市の代表者などが共同募金運動の協力を呼びかけました。



厚生労働大臣メッセージを披露する宮川会長

プ客室乗務員の渡邊瞳さんから伝達され、宮川会長が披露。次に、共同募金受配者の代表として、社会福祉法人今川学園の篠瀬実千代園長から寄附者（府民）に向け、ありがとうメッセージが伝えられました。

その後、今年の大阪府共同募金会オリジナルポスターをデザインした松沼利恵さんによる宣言があり、街頭募金および啓発活動がスタート



善意にこころがあたまりました

ト。募金箱を手に通行人に募金協力を呼びかけました。

大阪市社協職員が 街頭募金活動

市社協職員16人が10月1日の夕刻、天王寺区上本町6丁目交差点周辺で、街頭募金をおこないました。市社協が実施する多くの事業に共同募金の配分金があてられていることを踏まえ、財源・資金の大切さ、募金者の

思いを再認識するため、平成16年からこの活動を続けており、この日は17523円の募金が集まりました。

10月21日には、四天王寺境内西重門付近にて、大阪府共同募金会が主催する街頭募金活動及び広報活動に、職員4人が参加しました。

多くの方に協力していただき、その善意にこころがあたりました。みなさまの善意は、大阪府共同募金会を通じて、福祉事業に活用されます。共同募金運動は、来年3月31日まで全国各地で取り組まれます。

令和 元年度 児童虐待防止推進月間

厚生労働省では、平成16年度から毎年11月を「児童虐待防止

推進月間」と定め、さまざまな取り組みを実施しています。その

189(いちひやく) ちいさな命に 待ったなし

児童虐待は社会全体で解決すべき問題です。あなたの1本のお電話で救われる子どもがいます。

児童虐待かもと思ったらすぐにお電話ください。

189

出産や子育てに関する悩みや質問がある方は、児童相談所・市町村へお気軽にご相談ください。

連絡は匿名で行うことも可能です。連絡先や連絡内容に関する秘密は守られます。お住まいの地域の児童相談所につながります。

※一部のIP電話からはつながりません。

一つとして児童虐待問題に対する理解を一人ひとりが深め、主体的な関わりを持つことを目的として標語を全国公募しており、今年度は石居くるみさん（東京都）の「いちちはやくちいさな命に待ったなし」が選ばれました。

大阪市においても各区および関係機関と連携し、児童虐待防止の取り組みを毎年おこなっており、今年度も「児童虐待防止・オレンジリボンキャンペーン」として、大阪府や堺市と連携し、行政と民間が協働してオレンジリボンを広め、児童虐待の防止と早期発見の重要性について広く市民への理解を促していきます。

具体的には、オレンジリボンを啓発するオブジェを市役所本庁前に設置して道行く市民に訴えるほか、Jリーグセレッソ大阪のホームゲームや大阪マラソンエキスポにおいて啓発チラシやグッズの配布、大阪府書店商業組合の協力によるしおりの配布、大阪シティ信用金庫等の協力によるポスター掲示、また、児童虐待防止の集會や会議の場などでも啓発活動をおこない幅広く取り組んでいきます。このような取り組みを通じて、すべての子どもが健やかに育つよう、おとな一人ひとりが考え行動する機運を醸成し、児童虐待防止を推進していきます。

みなさんの善意を 社会福祉の発展に

市社協ではさまざまな福祉事業に活用させていただくため、寄附を募集しています。

【一般寄附】

9月24日、大阪硝子株式会社から15万円の寄附をいただき、新名和也・代表取締役社長（写真左から二人目）から、市社協の西嶋善親・常務理事に目録が手渡されました。

同社の意向を受け、市社協が実施する「地域こども支援ネットワーク事業」に有効に活用させていただきます。



【善意銀行】

10月21日、西日本電信電話株式会社関西事業本部から社員食堂で使用していた厨房機器等の寄附があり、NTTビジネスアソシエ西日本の辻田泰昌・厚生担当課長（写真左）に、市社協の浅井俊之・事務局長から、感謝状が手渡されました。

寄贈された厨房機器は、大阪社会事業施設協議会、各区社会福祉協議会を通じて、市内の社会福祉施設や地域の団体等において、有効に活用させていただきます。



10月10日から10月13日にかけて日本列島に接近、上陸した台風19号は、猛烈な暴風と記録的な豪雨により、各地に甚大な被害をもたらした。7つの県で合わせて71の河川、135か所で川の堤防が壊れる決壊が発生した（国土交通省10月22日午前6時時点の発表）。また、全国で6万2785棟の住宅が床上、床下の浸水の被害を受け（総務省消防庁10月23日午前9時時点の発表）、多くの人たちの生活

から2019年までの3年間にどのような災害に関してニュースを発行してきたのか、その被害名が挙げられている。その数をみると、2017年は5つの災害、2018年は、北海道胆振東部地震や大阪府北部地震、7月豪雨災害、大阪都市部に甚大な被害をもたらした台風21号などの12の災害、2019年は先述の台風19号や台風15号など10の災害である。ここ最近は、地震もそうであるが、豪雨災

めの他施設からの派遣要請などをおこなった。災害派遣医療チームなどの派遣・検討、各市町村を中心に災害ボランティアセンターも立ち上げられている（『福祉新聞』2019年10月21日）。

生活の再建、福祉施設などの運営再開に向けた動きも始まっている。しかし、被害が広範囲にわたるため、再建に必要な費用、人手、機材等の確保など、何から手をつければいいのかわからない、先の

今後の私たちの生活と地球環境の変化

大阪市立大学大学院 生活科学研究科 講師 鵜浦直子

が一変した。

全国社会福祉協議会の被災地支援・災害ボランティア情報サイトには、2017年

害も目立ってきている。梅雨の時期は、甚大な被害をもたらすほどの豪雨が稀でなくなってきた。これからの社会や生活は一体どうなっていくのだろうかと心配せずにはいられない。

台風19号の被害発生を受け、被災者支援が始まっている。厚生労働省は被災した高齢者・障害者などの介護・福祉サービスを利用した際の利用料減免措置や福祉施設での緊急受け入れ、職員確保のた

見通しが立たないなどの問題が山積し、個人やその地域のみだけではどうにもならない状況になっている。政府は、今回の被災に必要な応じて今年度予算の予備費の活用、補正予算の編成を検討する考えを示した。今後の私たちの生活のあり方と地球環境の変化とを切り離して考えることはもうできない。私たちの生活を守るために、何を優先課題として取り組むか、真剣に考えていかなければならない。

風をよむ

就労継続支援B型Landmark (NPO法人すすき)は、平成30年7月に開設した事業所です。心身等の障がいや疾病を抱え一般就労が困難である方々が、日中に就労訓練等をする場所で、地下鉄蒲生四丁目駅、JR鳴野駅から徒歩約7分、バスなら新喜多東停留所から徒歩約3分と通いやすい所にあります。

Landmarkという事業所名の由来は、利用される方々にとって、この場所が「目印」や「道しるべ」となり、社会生活を営むための社会資源のひとつとなり、という意味を込めています。「ひとりひと

り布見本やケーキボックス組立もおこなっています。また、作業能力等に応じて評価をおこない、その評価により工賃がアップしていくようなシステムも導入しています。

昼休憩時の食事については、まかない形式の昼食を用意し、費用負担がかからず摂ることができます。業務用の厨房で、調理人が手づくりの料理を用意。毎回、温かくて栄養バランスが取れた一汁三菜を基本としたメニューを提供しています。

さらに、自宅から通うのが困難な方へは、送迎サービスも限定的ではありますがおこなっており、土曜日や祝日にも開所し

“あなたの”道しるべ、どんなふうに創いますか？ NPO法人 すすき Landmark

「通いやすい事業所」をめざし、快適で居心地よい場と充実した訓練を提供できるよう工夫しています。

事業所の玄関ドアを開けると、室内全体を見渡せる開放的な空間が広がり、プライベートが守られた相談室、2か所のお手洗いを設置。またセキュリティを重視し、玄関にはドアホンがあり関係者以外は出入りできないようになっています。

作業に関しては個々の特性に配慮し種類を増加・工程を細分化。ペットフード加工・計量、プラスチック製品加工に加え、

ている日もあります。

まだまだ新しい事業所ですが、利用される方ひとりひとりの要望に応えられるよう創意工夫をし、地域の皆様や関係機関とのご縁を大切に、ともに障がい者福祉、就労支援の発展に寄与できるよう今後も活動していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



住所 〒536-0017
大阪府城東区新喜多東1-8-40 白樺ハイツ城東111号室
TEL&FAX 06-7164-6858



今回派遣する職員の出発式

市協 区協

被災地支援 福島県郡山市社協へ職員を派遣

台風19号、またその後の局地的な豪雨により、お亡くなりになった方々にお悔やみ申しあげますとともに、被災された皆様に心からお見舞い申しあげます。広範囲で被害が出ているなか、各地で災害ボランティアセンター(以下、災害VC)を順次開設しています。

大阪市社協を含む近畿ブロックの府県・指定都市社協では、福島県内の災害VCの運営支援のため、10月25日から職員を派遣することになりました。本会では各区社協と連携し、福島県郡山市社協(災害VC)に職員を派遣しています。

被災された方々が一日でも早く元の生活を取り戻せるよう、住民のみなさん、ボランティア、現地の社協職員と力を合わせて取り組んでいきます。

立ちどまらない保険。
MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の安心

GK

1児までの保険 住まいの保険 介護の保険

www.ms-ins.com